

働く女性の「仕事観とワーク・ライフ・バランス」に関する意識調査

長瀬産業株式会社／株式会社ナガセ ビューティケア

長瀬産業株式会社(本社:東京都中央区／代表取締役社長:長瀬 洋)の100%子会社である、株式会社ナガセ ビューティケア(東京都中央区日本橋小舟町 5-1／代表取締役社長:丸岡 英樹)では、このたび、全国の20歳代～50歳代の働く既婚女性を対象とした‘働く女性の「仕事観とワーク・ライフ・バランス」に関する意識調査’と題したアンケート調査を実施いたしました。(調査期間:2013年10月11日～13日、有効回答数500人)ここに調査結果がまとめられましたのでご報告いたします。

働く女性の武器は、「笑顔」と「コミュニケーション能力」

職場の上司や部下に言われて嬉しいのも「笑顔がいいね」など人柄を褒められたとき
既婚女性のワーク・ライフ・バランス実現のカギは、「時間管理」「夫(家族)の協力」

トピックス

- 働く女性ができるべく時間をかけたいのは「睡眠」が1位。
時間をかけたいのにかけられないのは1位「睡眠」、2位「旅行」、3位「趣味」。
- 働く上で重視するのは、「安定」「給料」よりも「自分の好きな仕事」が上位に。
- 働く女性の武器、1位は「笑顔」！
2位は「コミュニケーション能力」、次いで「愛嬌」「要領の良さ」と続く。
- 職場の上司や部下に言われて最も嬉しいのは、自分の人柄を褒める言葉。
「仕事ができるね」より「笑顔がいいね」。
- ワーク・ライフ・バランス、実現の自己評価は平均60%。
自己評価が高いのは、「派遣・契約社員」と「パート・アルバイト」。
- 夫の家事への貢献度は平均53点。夫の家事貢献度が高いほど、ワーク・ライフ・バランスの実現度も高いという結果に。
- 夫に言われて一番嬉しい言葉は、「愛してる」より「ありがとう」。
その反面、「ありません」「何を言われてもうれしくない」が2位に。

【この件に関するお問い合わせ先】

長瀬産業株式会社 ビューティケア製品事業部 広報担当 若山 TEL:03-3665-3622 E-mail:pr@nagase.co.jp

※調査結果はウェブサイト(<http://nbc.jp>)からもご覧になれます。

働く女性の「仕事観とワーク・ライフ・バランス」に関する意識調査の目的

“育休3年”、“女性手帳”など、働く女性をサポートする政策案が打ち出され、仕事と家庭など、複数の役割を抱える女性の現状がさまざまなメディアで取り上げられています。

このような動きを背景に、厚生労働省が2007年に策定した「ワーク・ライフ・バランス」(働く全ての方々が、「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方)は近年再び見直され、注目されはじめています。

生き活きとした女性をサポートするナガセビューティケアでは、現代の既婚女性たちがどのような仕事観を持ち、どの程度ワーク・ライフ・バランスを実現出来ているかを探るべく、働く既婚女性を対象に「仕事観とワーク・ライフ・バランス」に関する調査を実施しました。

働く女性の「仕事観とワーク・ライフ・バランス」に関する意識調査の総括

■働く女性の平均睡眠は「6.3時間」、勤務「5.9時間」、通勤「0.9時間」、家事・育児「3時間」、自分のために使える自由な時間「2.1時間」。

働く既婚女性の平日の時間配分について質問したところ、『睡眠時間』は「6時間」(42.4%)が最も多く、平均で6.3時間、『勤務時間』は「8時間」(28.4%)で平均5.9時間、『通勤時間(往復)』は「1時間未満」(66.6%)で平均0.9時間、『家事・育児の時間』は「2時間」(31.8%)で平均3時間、『自分のために使える自由な時間』は「2時間」で、平均2.1時間となりました。(→調査結果の詳細はP.2)

■なるべく時間をかけたいのは「睡眠」。時間をかけたいのにつけられないのは「睡眠」「旅行」「趣味」。

働く既婚女性に『なるべく時間をかけようとして心掛けていること』を質問したところ、「睡眠」(75.4%)が圧倒的に多い結果となりました。『なるべく時間をかけたくないこと』は「通勤時間」(53.0%)が最も多く、『時間をかけたいのにつけられないこと』は「睡眠」(30.6%)が最も多く、次いで「旅行」「趣味」と続きました。

2008年に実施した働く女性の「ワーク・ライフ・バランス」の調査結果と比較すると、『なるべく時間をかけようとして心掛けていること』は順位が「睡眠」「趣味」「食事」と、2008年も今も「睡眠」を大事にするライフスタイルは変わらないようです。また、『時間をかけたいのにつけられないこと』は「睡眠」「旅行」「趣味」と、自分のゆとりや家族の時間を充実させたい傾向が強くなっているようです。(→調査結果の詳細はP.3~4)

■働く上で重視するのは、「安定」「給料」よりも「自分の好きな仕事」。

働く既婚女性に『働く上で、何を最も重視しますか』と質問したところ、「自分の好きな仕事であること、やりがい」(33.2%)が最も多く、「残業が少ない、時間の融通が利く」(28.0%)、「希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である」(22.8%)と続き、「お給料が良い、福利厚生が充実している」(16.0%)が最も低い結果となりました。

年代別で比較すると、20代では「残業が少ない、時間の融通が利く」が最も多い一方、30代から50代までは「自分の好きな仕事であること、やりがい」が最も多く、若者の方がプライベートの時間を重視する傾向が強いです。また、40代と50代では「希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である」が「お給料が良い、福利厚生が充実している」よりも上位に上がり、年齢に伴う再就職の難しさから安定性を求める気持ちが表れています。

雇用別で比較すると、自由業、自営業で「自分の好きな仕事であること、やりがい」が全体に比べ圧倒的に多い結果となりました。仕事が“自分の好きなこと”であるからこそ成り立つ雇用の形といえそうです。

(→調査結果の詳細はP.4~5)

■「仕事内容」「仕事量」は満足も、「待遇」はあまり満足していない。

働く既婚女性に『現在の仕事に対する満足度』を質問したところ、『仕事内容』について「充分満足している」「まあまあ満足している」と答えた人があわせて72.8%、『仕事量』は77.6%にのびりました。

一方『待遇』では、「あまり満足していない」「満足していない」と答えた人が 51.2%にのぼり、半数以上を占めました。(→調査結果の詳細は P. 6)

■業務内容によって「仕事内容」の満足度に差が。

業務内容別で『仕事内容の満足度』を比較すると、指導や経營業務に携わる「リーダー、マネージャー、主任」「経営」「派遣社員、アルバイト、パートの指導」で「充分満足している」「まあまあ満足している」と答えた人が全体よりも高い結果となりました。特に「経営」では、「充分満足している」(32.3%)が、全体の2倍にのびます。一方、「一般事務、総務、経理」では、「あまり満足していない」「満足していない」と回答した人が全体よりも高くなりました。(→調査結果の詳細は P. 6)

■働く女性が望むのは“現状維持”と“仕事の充実”“できれば専業主婦になりたい”のは、20代が最多。

働く既婚女性に、『今後の働き方についての希望』を質問したところ、「現状維持」(33.2%)を望む意見が最も多い一方、「スキルアップしたい」(26.6%)、好きな事を仕事したい(22.0%)「負担を減らした働き方をしてみたい」(15.2%)と、仕事の充実や変化を望む意見が続きました。

年代別で比較すると、30代で「スキルアップしたい」(37.6%)が他の年代に比べて最も多い一方、「現状維持」(23.2%)が最も低く、仕事への意識が変化しやすい世代と言えます。

また、20代で「できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい」が他の年代より最も多く、若者に専業主婦願望が強い傾向が表れました。(→調査結果の詳細は P. 7)

■“充実感”“チャレンジ”などの回答多くも、今後の働き方の希望について根底にあるのは“お金”。

働く既婚女性に『今後の働き方についての希望』の理由を質問したところ、「一定の収入がほしい」「給料アップ」「仕事量にあった報酬が欲しい」など“お金”に関する回答が全体的に多くを占めました。

【3】の質問では、働く上での重視点として「自分の好きな仕事」が最も多かったものの、ここで望むことはやはり“お金”という生活感のある結果となりました。

一方で「スキルアップ」「昇進・昇格」では“充実感”を得たいという意見も多く、「負担を減らした働き方」では、“家族の時間をもっと確保したい”という意見も多く目立ちました。(→調査結果の詳細は P. 8)

■働く女性の最大の武器は「笑顔」！次いで「コミュニケーション能力」「愛嬌」「要領の良さ」と続く。“優しく”したいけどできない、理想と現実も明らかに。

働く既婚女性に『仕事における“女性の武器”』について質問したところ、『理想』として挙げられたのは「笑顔」(55.4%)が最も多く、「コミュニケーション能力」(54.0%)、「優しさ」(49.0%)と続きました。

『武器にしていること』では、「笑顔」(32.6%)、「コミュニケーション能力」(23.8%)、「愛嬌」(23.4%)と続き、「優しさ」(16.8%)は大きく順位を下げたことから、周りに優しくしたいがなかなかできない葛藤が浮き彫りになりました。

『理想』を年代別で比較すると、20代では「愛嬌」「華やかさ」など、外見に関する回答が他の年代に比べて上位にあがりました。50代では、「優しさ」「柔軟性」「感性の豊かさ」など女性らしい内面に関する回答が上位を占めました。『武器にしていること』では、「笑顔」「コミュニケーション能力」「愛嬌」がどの年代でも高い結果となり、仕事場の人間関係をなるべく円滑にしたい気持ちがうかがえます。また、「愛嬌」はどの年代でも上位にあがっているにもかかわらず、「華やかさ」はどの年代でも圧倒的に低い結果となりました。

(→調査結果の詳細は P. 9～11)

■職場の上司に言われて嬉しいのは人柄を褒める言葉。「仕事ができるね」より「笑顔がいいね」。

働く既婚女性に「職場の上司や部下に言われて嬉しかった言葉」を質問したところ、「笑顔がいい」「まじめ」「気が利く」など、自分の人柄を褒める言葉に関する回答が最も多い結果となりました。次いで「仕事ができるね」といった、仕事能力評価に関する回答が続きました。(→調査結果の詳細は P. 11)

■ワーク・ライフ・バランス、実現の自己評価は平均60%。自己評価が高いのは、「派遣・契約社員」と「パート・アルバイト」。

働く既婚女性に、「ワーク・ライフ・バランスの実現度」について質問したところ、回答は50%から90%未満に集中し、全体の約7割になりました。全体の平均は約60% (59.9%)で、年代別で平均を比較すると、50代で61.5%と最も高く、30代と40代では平均を下回りました。最も仕事や育児に追われる世代ならではの結果といえそうです。

雇用別で比較すると、「派遣・契約社員」(65.1%)が全体平均を上回り最も多く、次いで「パート・アルバイト」(60.1%)が続きました。ワーク・ライフ・バランスの実現には、働く時間との関連性が高いことがいえそうです。

(→調査結果の詳細はP. 12)

■ワーク・ライフ・バランスが高い理由には「時短勤務」「家族の協力」低い理由には「仕事が忙しい」意見が目立つ。

働く既婚女性にワーク・ライフ・バランスの実現度の理由について質問をすると、実現度が高い人の回答には、「仕事の時間が短い」「定時で帰れる」「家族の協力がある」や「好きなことをしている」といった理由が目立ちました。また、実現度が低い人の回答には、「仕事がメイン」「仕事に忙殺される」と、仕事の忙しさに関する理由が大半を占めました。

(→調査結果の詳細はP. 13)

■ワーク・ライフ・バランスの実現のカギは「時間管理」「夫(家族)の協力」。

働く既婚女性に『ワーク・ライフ・バランスの実現度をより上げていくには、どのようにしたらいいと思いますか』と質問をしたところ、「時間の管理、有効化」(60人)という回答が最も多く、次いで「夫(家族)の理解や協力」(43人)と続きました。時間の使い方を見直すこと、家族のサポートを得ることが重要だと考える人が大多数のようです。

(→調査結果の詳細はP. 14)

■子供が生まれて学んだのは「時間の大切さ」、育つにつれ考え方は「子供が第一」へとシフト。

働く既婚女性の中で子供がいる方232人に『物事の考え方に変化はありましたか』と質問したところ、20代と30代では「仕事の効率化、時間の大切さ、時間の管理」、40代と50代では「子供が第一優先の生活になった」という回答が最も多くなりました。子供が生まれたことによる環境の変化によって時間の使い方を学び、成長すると子供に関するイベントが生活の中心になる様子がうかがえます。

(→調査結果の詳細はP. 15)

■夫の家事への貢献度は平均53点。夫の家事貢献度が高いほど、ワーク・ライフ・バランスの実現度も高いという結果に。

働く既婚女性に『夫の家事への貢献度について採点するとしたら何点をつけますか』と質問したところ、40点～50点未満では少なく、80点～90点未満では多かったものの、大きな偏りがなく全体的に回答が万遍なく散らばった結果となりました。全体の平均は約53点(52.8点)で、年代別で比較すると20代が最も高く約58点(58.2点)、50代が最も低く約45点(44.5点)となりました。20代と50代では、世代による男性の家事への考え方の違いが影響しているといえそうです。

夫の貢献度の点数ごとにワーク・ライフ・バランス実現度の自己評価をみると、夫の貢献度が高いグループほど、ワーク・ライフ・バランスの自己評価も高い結果となりました。働く既婚女性が充実したライフスタイルを送るには、夫の協力が欠かせないといえそうです。

(→調査結果の詳細はP. 16)

■夫の家事貢献度に対する理由の上位2つは、「ほとんど何も手伝ってくれない」、「なんでもやってくれる」。

働く既婚女性に夫の家事貢献度の理由を質問すると、「ほとんど何も手伝ってくれない」(94人)、「なんでもやってくれる」(91人)が1位と2位になりました。個人的な受け止め方に差はあるものの、ほとんど家事に加担しない夫と、なんでも家事を手伝ってくれる夫の2パターンに分かれる傾向があるようです。

(→調査結果の詳細はP. 17)

**■夫に言われて一番嬉しい言葉は、「愛してる」より「ありがとう」。
その反面、「ありません」「何を言われてもうれしくない」が2位に。**

働く既婚女性に『夫の口から言われたら嬉しい一言を教えてください』と質問したところ、「ありがとう、感謝してます」(210人)と、感謝を伝える言葉が圧倒的に多い結果となりました。続いたのは、「ありません、何を言われてもうれしくない」(83人)で、もはや夫からの褒め言葉は期待していない気持ちの表れかもしれません。

次いで、「(料理)がおいしい」、「頑張ってるね、お疲れ様」、「かわいい、きれい」など褒めたり称えたりする言葉に関する回答が続きました。(→調査結果の詳細はP. 18)

働く女性の「仕事観とワーク・ライフ・バランス」に関する意識調査

【調査概要】

アンケート対象: 全国の既婚有職女性 500 名
年齢: 20 歳代~50 歳代(20 代 125 人、30 代 125 人、40 代 125 人、50 代 125 人)
地域: 全国
調査方法: インターネットによるアンケート記入式
調査時期: 2013 年 10 月 11 日~13 日

【調査項目一覧】

- 【1】あなたの平日の一日の平均的な「睡眠時間」、「勤務時間」、「通勤時間」(往復)、「家事・育児の時間」、「自分のために使える自由な時間」(お風呂、肌のお手入れも含む)をお答えください。 ……P.2
- 【2】あなたの生活で「なるべく時間をかけようと心掛けていること」「なるべく時間をかけたくないこと」「時間をかけたいのにかけられないこと」は何ですか。それぞれ 3 つずつお選びください。 ……P.3-4
- 【3】あなたが働く上で、何を最も重視しますか。あなたのお気持ちに最も近いものを 1 つお選びください。 ……P.4-5
- 【4】現在の仕事に対する満足度を教えてください。「仕事内容」「仕事量」「待遇」「雇用条件」それぞれの面でお答えください。 ……P.6
- 【5】今後の働き方についての希望を教えてください。 ……P.7
- 【6】【5】で仕事を続ける上で変化を求めると答えた方は、なぜそのように思えますか。また、「できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい」と答えた方は、お仕事をやめたいと思いつつ続けている理由を教えてください。 ……P.8
- 【7】仕事における“女性の武器”とは何だと思えますか。「理想」と「自分が武器にしていること」を、見た目や内面を含めてお答えください。 ……P.9-11
- 【8】職場の上司や部下に言われて嬉しかった言葉を教えてください。 ……P.11
- 【9】ワーク・ライフ・バランス(働く全ての方々が、「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方)を、あなた自身はどのくらい実現できていると思えますか。0 から 100%の間で実現度を教えてください。 ……P.12
- 【10】【9】でお答えになった理由を教えてください。 ……P.13
- 【11】今後、ワーク・ライフ・バランスの実現度をより上げていくためには、どのようにしたらいいと思えますか。 ……P.14
- 【12】「子供がいる」方にお伺いします。子育てをしながら働くことで、子どもがいなかったときと比較して物事の考え方に変化はありましたか。どのような変化か教えてください。 ……P.15
- 【13】夫の家事への貢献度に対して採点するとしたら何点をつけますか。 ……P.16
- 【14】【13】でお答えになった理由を教えてください。 ……P.17
- 【15】夫の口から言われたら嬉しい一言を教えてください。 ……P.18

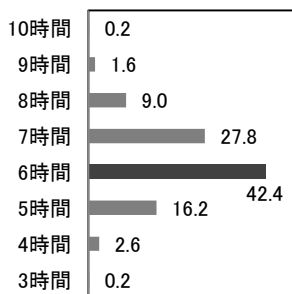
【1】 あなたの平日の一日の平均的な「睡眠時間」、「勤務時間」、「通勤時間」(往復)、「家事・育児の時間」、「自分のために使える自由な時間」(お風呂、肌のお手入れも含む)をお答えください。(単一回答・%)

働く女性の平均睡眠は「6.3時間」 勤務「5.9時間」 通勤「0.9時間」 家事・育児「3時間」 自分のために使える自由な時間「2.1時間」

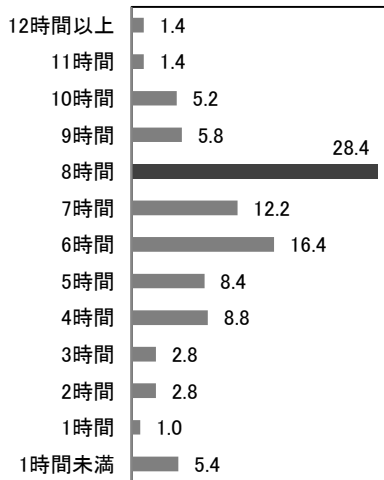
働く既婚女性の平日の時間配分について質問したところ、『睡眠時間』は「6時間」(42.4%)が最も多く、平均で6.3時間、『勤務時間』は「8時間」(28.4%)で平均5.9時間、『通勤時間(往復)』は「1時間未満」(66.6%)で平均0.9時間、『家事・育児の時間』は「2時間」(31.8%)で平均3時間、『自分のために使える自由な時間』は「2時間」で、平均2.1時間となりました。

【全体(%)】

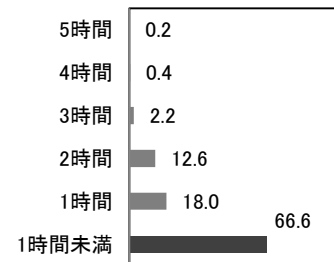
■睡眠時間
平均:6.3時間



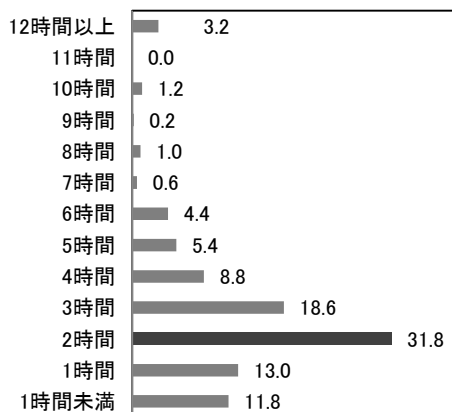
■勤務時間
平均:5.9時間



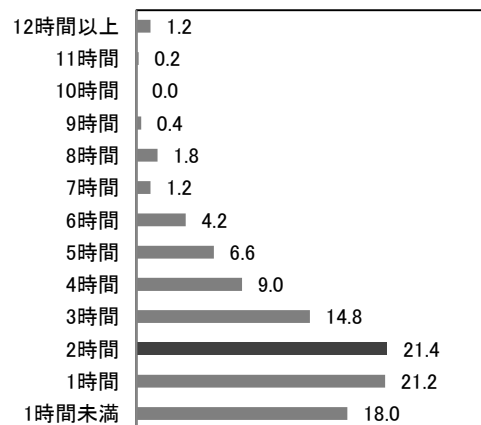
■通勤時間(往復)
平均:0.9時間



■家事・育児の時間
平均:3時間



■「自分のために使える自由な時間」
(お風呂、肌のお手入れも含む)
平均:2.1時間

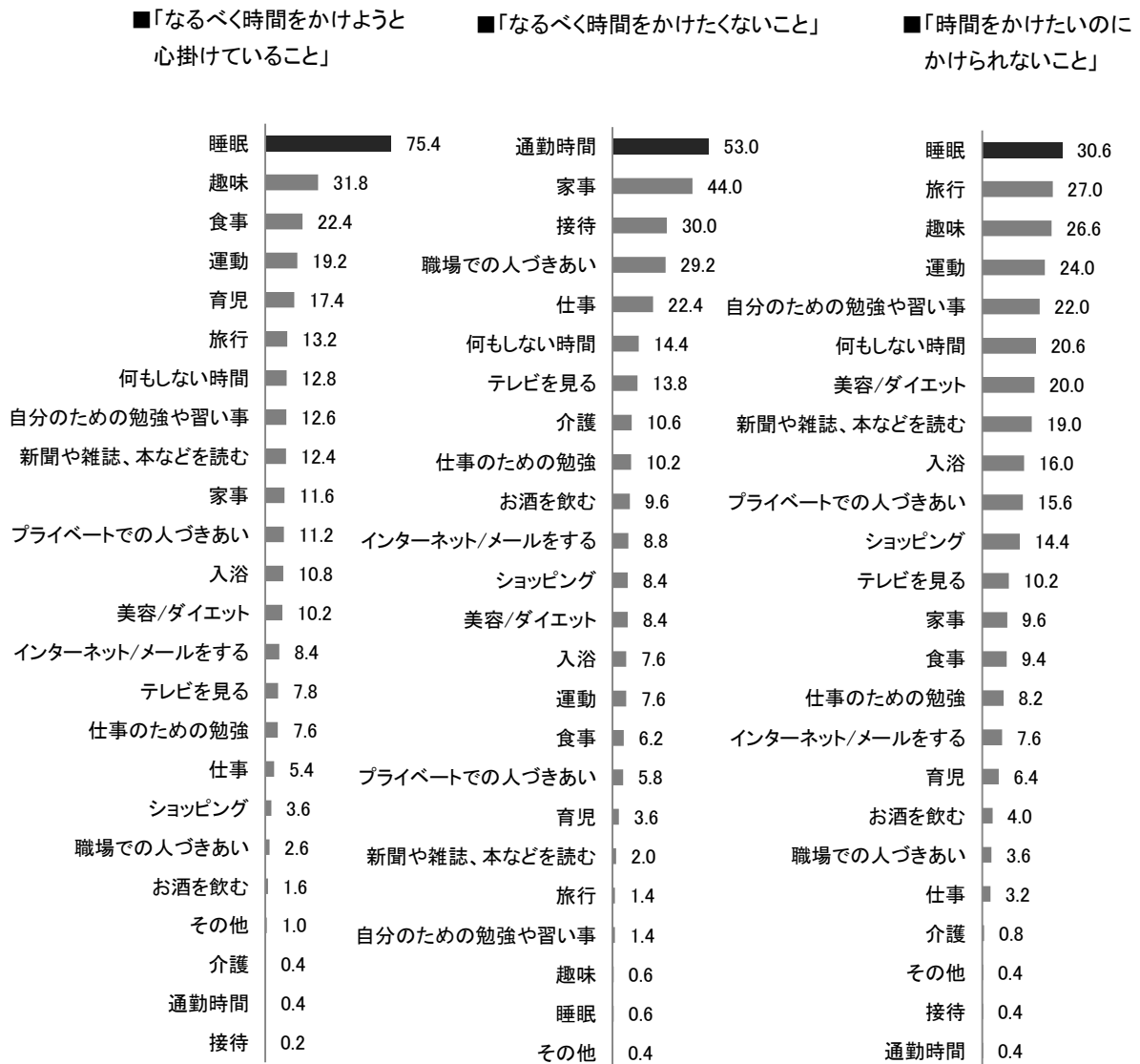


【2】あなたの生活で「なるべく時間をかけようと心掛けていること」「なるべく時間をかけたくないこと」「時間をかけたのにかけられないこと」は何ですか。それぞれ3つずつお選びください。(制限回答・%)

なるべく時間をかけたいのは「睡眠」 時間をかけたのにかけられないのは 「睡眠」「旅行」「趣味」

働く既婚女性に『なるべく時間をかけようと心掛けていること』を質問したところ、「睡眠」(75.4%)が圧倒的に多い結果となりました。『なるべく時間をかけたくないこと』は「通勤時間」(53.0%)が最も多く、『時間をかけたのにかけられないこと』は「睡眠」(30.6%)が最も多く、次いで「旅行」「趣味」と続きました。

【全体(%)】



2008年に実施した働く女性の「ワーク・ライフ・バランス」の調査結果と比較すると、『なるべく時間をかけようと思っていること』は順位が「睡眠」「趣味」「食事」と、2008年も今も「睡眠」を大事にするライフスタイルは変わらないようです。

また、『時間をかけたいのにかけられないこと』は「睡眠」「旅行」「趣味」と、自分のゆとりや家族の時間を充実させたい傾向が強くなっているようです。

■参考【2008年に実施した働く女性の「ワーク・ライフ・バランス」に関する調査比較(%)】

※対象条件は若干異なります

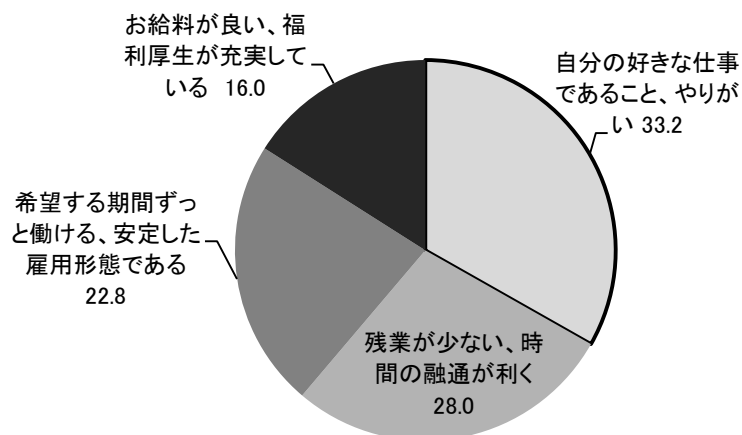
	2013年(今回)		2008年	
	なるべく時間をかけようと思っていること	1. 睡眠	75.4	1. 睡眠
2. 趣味		31.8	2. 趣味	25.1
3. 食事		22.4	3. 自分のための勉強や 習い事	23.0
なるべく時間をかけたくないこと	1. 通勤時間	53.0	1. 通勤時間	61.2
	2. 家事	44.0	2. 家事	27.0
	3. 接待	30.0	3. 接待	26.1
時間をかけたいのにかけられないこと	1. 睡眠	30.6	1. 運動	31.3
	2. 旅行	27.0	2. 睡眠	29.8
	3. 趣味	26.6	3. 自分のための勉強や 習い事	29.2

【3】あなたが働く上で、何を最も重視しますか。あなたのお気持ちに最も近いものを1つお選びください(単一回答・%)

働く上で重視するのは、 「安定」「給料」よりも「自分の好きな仕事」

働く既婚女性に『働く上で、何を最も重視しますか』と質問したところ、「自分の好きな仕事であること、やりがい」(33.2%)が最も多く、「残業が少ない、時間の融通が利く」(28.0%)、「希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である」(22.8%)と続き、「お給料が良い、福利厚生が充実している」(16.0%)が最も低い結果となりました。

【全体(%)】



年代別で比較すると、20代では「残業が少ない、時間の融通が利く」が最も多い一方、30代から50代までは「自分の好きな仕事であること、やりがい」が最も多く、若者の方がプライベートの時間を重視する傾向が強いです。また、40代と50代では「希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である」が「お給料が良い、福利厚生が充実している」よりも上位にあり、年齢に伴う再就職の難しさから安定性を求める気持ちが表れています。

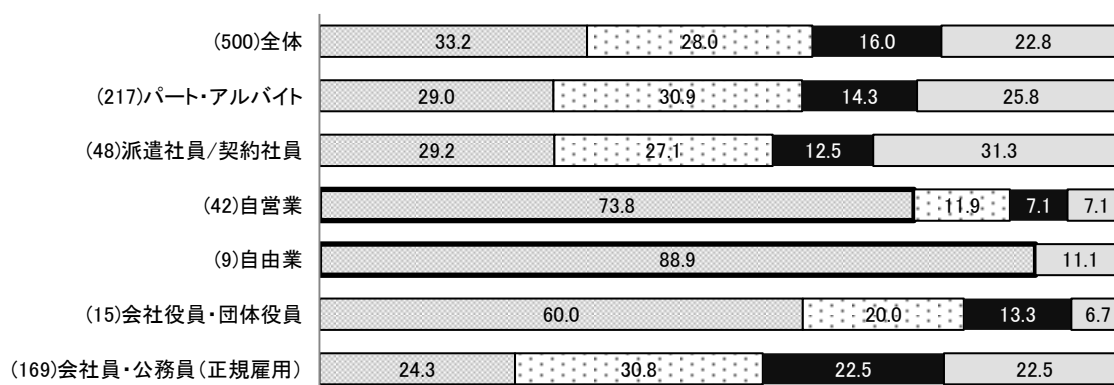
【年代別比較(%)】

20代			30代		
1	残業が少ない、時間の融通が利く	36.8	1	自分の好きな仕事であること、やりがい	34.4
2	自分の好きな仕事であること、やりがい	26.4	2	残業が少ない、時間の融通が利く	31.2
3	お給料が良い、福利厚生が充実している	19.2	3	お給料が良い、福利厚生が充実している	17.6
4	希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である	17.6	4	希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である	16.8
40代			50代		
1	自分の好きな仕事であること、やりがい	36.0	1	自分の好きな仕事であること、やりがい	36.0
2	残業が少ない、時間の融通が利く	28.0	2	希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である	32.0
3	希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である	24.8	3	残業が少ない、時間の融通が利く	16.0
4	お給料が良い、福利厚生が充実している	11.2	3	お給料が良い、福利厚生が充実している	16.0

雇用別で比較すると、自由業、自営業で「自分の好きな仕事であること、やりがい」が全体に比べ圧倒的に多い結果となりました。仕事が“自分の好きなこと”であるからこそ成り立つ雇用の形といえそうです。

【雇用別比較(%)】

()内はサンプル数



- 自分の好きな仕事であること、やりがい
- お給料が良い、福利厚生が充実している

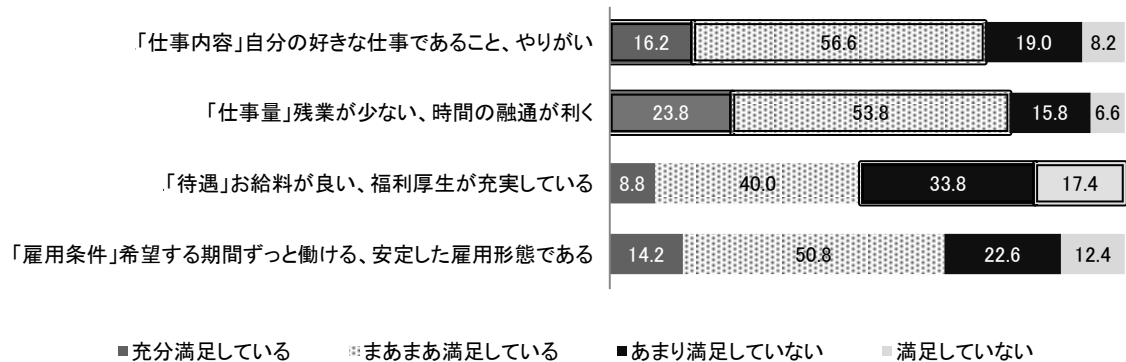
- 残業が少ない、時間の融通が利く
- 希望する期間ずっと働ける、安定した雇用形態である

【4】現在の仕事に対する満足度を教えてください。「仕事内容」「仕事量」「待遇」「雇用条件」それぞれの面でお答えください。(単一回答・%)

「仕事内容」「仕事量」は満足も、「待遇」はあまり満足していない

働く既婚女性に『現在の仕事に対する満足度』を質問したところ、『仕事内容』について「充分満足している」「まあまあ満足している」と答えた人があわせて72.8%、『仕事量』は77.6%にのびました。一方『待遇』では、「あまり満足していない」「満足していない」と答えた人が51.2%にのび、半数以上を占めました。

【全体(%)】



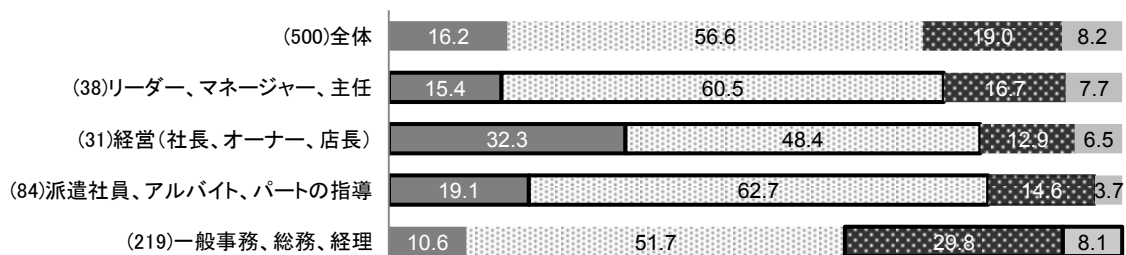
業務内容によって「仕事内容」の満足度に差が

業務内容別で『仕事内容の満足度』を比較すると、指導や経營業務に携わる「リーダー、マネージャー、主任」「経営」「派遣社員、アルバイト、パートの指導」で「充分満足している」「まあまあ満足している」と答えた人が全体よりも高い結果となりました。特に「経営」では、「充分満足している」(32.3%)が、全体の2倍にのびます。一方、「一般事務、総務、経理」では、「あまり満足していない」「満足していない」と回答した人が全体よりも高くなりました。

【業務内容別比較(%)】

■「仕事内容」自分の好きな仕事であること、やりがい

()内はサンプル数

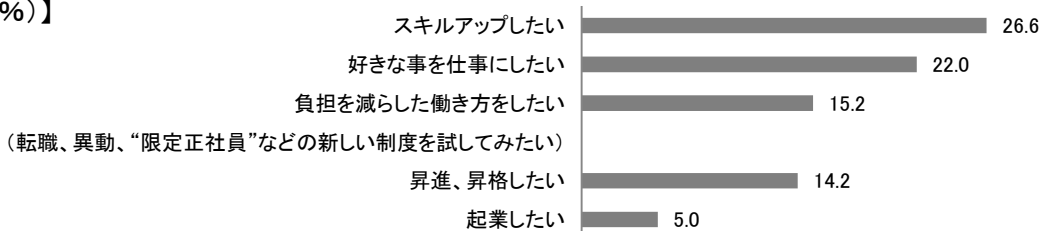


【5】 今後の働き方についての希望を教えてください。(制限回答・%)

働く女性が望むのは “現状維持”と“仕事の充実” “できれば専業主婦になりたい”のは、20代が最多

働く既婚女性に、『今後の働き方についての希望』を質問したところ、「現状維持」(33.2%)を望む意見が最も多い一方、「スキルアップしたい」(26.6%)、好きな事を仕事したい」(22.0%)「負担を減らした働き方をしたい」(15.2%)と、仕事の充実や変化を望む意見が続きました。

【全体(%)】



年代別で比較すると、30代で「スキルアップしたい」(37.6%)が他の年代に比べて最も多い一方、「現状維持」(23.2%)が最も低く、仕事への意識が変化しやすい世代と言えそうです。

また、20代で「できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい」が他の年代より最も多く、若者に専業主婦願望が強い傾向が表れました。

【年代別比較(%)】

20代		
1	スキルアップしたい	27.2
2	現状維持	25.6
3	好きな事を仕事にしたい	23.2
3	負担を減らした働き方をしたい(転職、異動、“限定正社員”などの新しい制度を試してみたい)	23.2
5	昇進、昇格したい	21.6
6	できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい	17.6
7	起業したい	5.6

30代		
1	スキルアップしたい	37.6
2	好きな事を仕事にしたい	24.8
3	現状維持	23.2
4	昇進、昇格したい	18.4
4	負担を減らした働き方をしたい(転職、異動、“限定正社員”などの新しい制度を試してみたい)	18.4
6	できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい	8.8
7	起業したい	4.8

40代		
1	現状維持	32.0
2	スキルアップしたい	28.8
3	好きな事を仕事にしたい	25.6
4	できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい	12.8
5	負担を減らした働き方をしたい(転職、異動、“限定正社員”などの新しい制度を試してみたい)	10.4
6	昇進、昇格したい	8.8
7	起業したい	6.4

50代		
1	現状維持	52.0
2	好きな事を仕事にしたい	14.4
3	スキルアップしたい	12.8
4	負担を減らした働き方をしたい(転職、異動、“限定正社員”などの新しい制度を試してみたい)	8.8
5	昇進、昇格したい	8.0
5	できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい	8.0
7	起業したい	3.2

【6】【5】で仕事を続ける上で変化を求めると答えた方は、なぜそのように思いますか。また、「できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい」と答えた方は、お仕事をやめたいと思いつながり続けている理由を教えてください。(自由回答)

“充実感”“チャレンジ”などの回答多くも 今後の働き方の希望について根底にあるのは“お金”

働く既婚女性に『今後の働き方についての希望』の理由を質問したところ、「一定の収入がほしい」「給料アップ」「仕事量にあった報酬が欲しい」など“お金”に関する回答が全体的に多くを占めました。

【3】の質問では、働く上での重視点として「自分の好きな仕事」が最も多かったものの、ここで望むことはやはり“お金”という生活感のある結果となりました。

一方で「スキルアップ」「昇進・昇格」では“充実感”を得たいという意見も多く、「負担を減らした働き方」では、“家族の時間をもっと確保したい”という意見も多く目立ちました。

■主な理由

◆スキルアップしたい

- ・会社がなくなっても、すぐに転職できるだけのスキルを身に着けたいから(20代)
- ・スキルアップが給料につながるから。充実感が増すから(30代)
- ・社会貢献をしたいから(40代)
- ・新しいことを覚えるのは楽しみだから(50代)
- ・56才 間もなく定年ですがパソコン業務を完璧にこなしたいため(50代)

◆昇進・昇格したい

- ・もっと給料が欲しいので(20代)
- ・正社員になって、一定の収入が欲しい(30代)
- ・生活費が足りない(40代)
- ・給料を上げたい。決裁権がほしい(50代)

◆負担を減らした働き方をしたい

- ・残業続きで私生活と体調に異常をきたしてしまったため(20代)
- ・今年子供が生まれ現在は育休中。離職はしたくないが、今までのように好きなだけ残業したり勉強したりはできない。自分の考え方も家庭にシフトしてきたから(30代)
- ・仕事を減らして家事を充実させたい(40代)
- ・仕事時間が多くなり、社員一人一人の負担が大きすぎる(50代)

◆起業したい

- ・楽な生活をしたい(20代)
- ・会社のやり方に縛られるのが嫌なので(30代)
- ・色々チャレンジしてみたいから(40代)
- ・仕事には生きがいを持っているが、給料が削減され続けている中、仕事上の人間関係も複雑になり、対人関係でもかなりのストレスを感じることがある。仕事量に見合った報酬があれば、苦勞も苦にはならないが、仕事が苦しくなっているのに、給料が減額され続けるのは納得がいかない気持ちだ。そのために生活も苦しくなってきたので、勤めを辞めて、独立したいと考えている。(50代)

◆好きな事を仕事にしたい

- ・好きなことをしている時間が最も幸せだから(20代)
- ・最近仕事にやりがいがないから(30代)
- ・嫌いな仕事を止むを得ず続けているから(40代)
- ・毎日仕事をする必要にかられていないので、今はストレスのない仕事内容だが、もっと自分にできることはないだろうか?もっと充実した日々を送れないだろうか?とあせりのようなものを感じてしまう。ただ、親の介護(幸い重度ではないが)などもあり、なかなか自由にはならない。それも甘えかもしれないが(50代)

◆現状維持

- ・好きな仕事も育児もできて、充実している(20代)
- ・仕事時間を長くしても見合う給料は見込めないで、
- ・現在の扶養範囲内で貯める努力をする(30代)
- ・ある程度の収入は必要だし、欲しいので働く事はキライだが仕方ない。今の仕事も、そんなに嫌ではないので現状維持を希望(40代)
- ・年齢的に仕事に限られるので、仕方なく(50代)

◆できれば、仕事をやめて専業主婦になりたい

- ・お金がないから働いている。子供がいるので子供のために家にいたい(20代)
- ・主人の収入だけでは生活が苦しい上に、主人が期間雇用職員で数年後には解雇が決定しているため、正社員の私がやめる方がもったいないから(30代)
- ・仕事内容の責任が重すぎるから(40代)
- ・経済的に余裕があれば好きなことだけしていたい(50代)

【7】仕事における“女性の武器”とは何だと思えますか。「理想」と「自分が武器にしていること」を、見た目や内面を含めてお答えください。(複数回答・%)

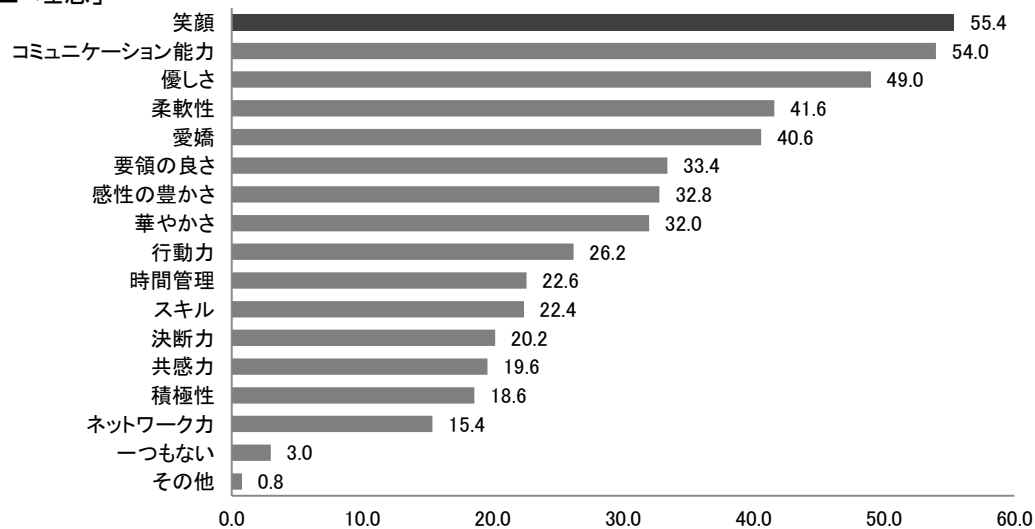
働く女性の最大の武器は「笑顔」！ 次いで「コミュニケーション能力」「愛嬌」「要領の良さ」と続く “優しく”したいけどできない、理想と現実も明らかに

働く既婚女性に『仕事における“女性の武器”』について質問したところ、『理想』として挙げられたのは「笑顔」(55.4%)が最も多く、「コミュニケーション能力」(54.0%)、「優しさ」(49.0%)と続きました。

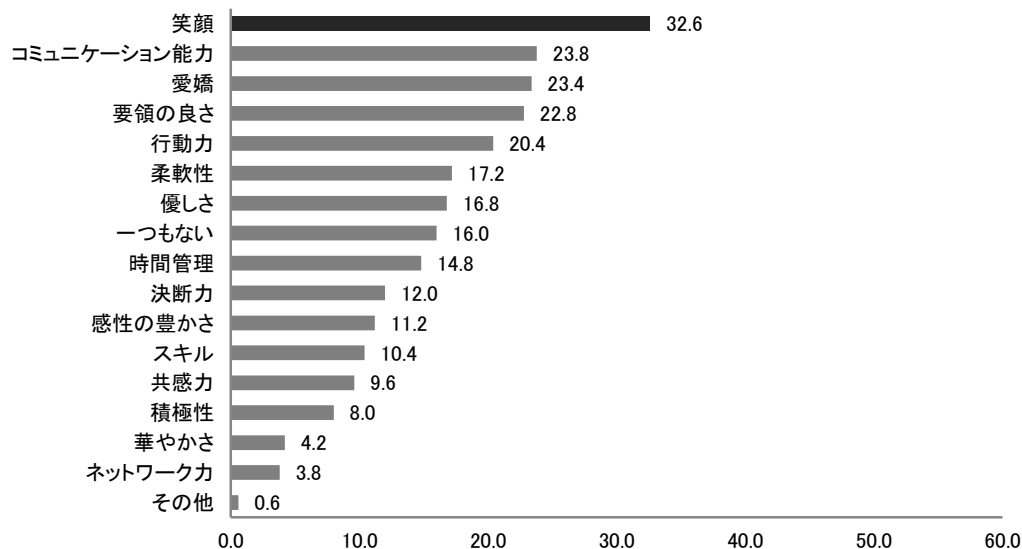
『武器にしていること』では、「笑顔」(32.6%)、「コミュニケーション能力」(23.8%)、「愛嬌」(23.4%)と続き、「優しさ」(16.8%)は大きく順位を下げたことから、周りに優しくしたいがなかなかできない葛藤が浮き彫りになりました。

【全体(%)】

■「理想」



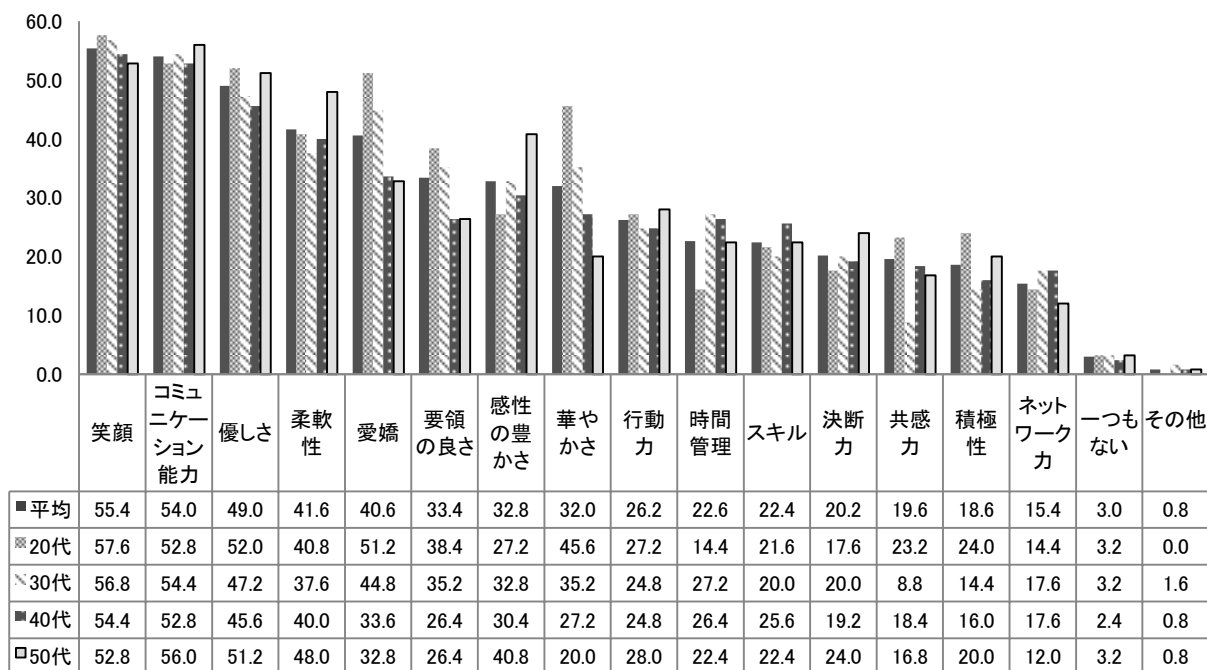
■「武器にしていること」



『理想』を年代別で比較すると、20代では「愛嬌」「華やかさ」など、外見に関する回答が他の年代に比べて上位にあがりました。50代では、「優しさ」「柔軟性」「感性の豊かさ」など女性らしい内面に関する回答が上位を占めました。

【年代別比較(%)】

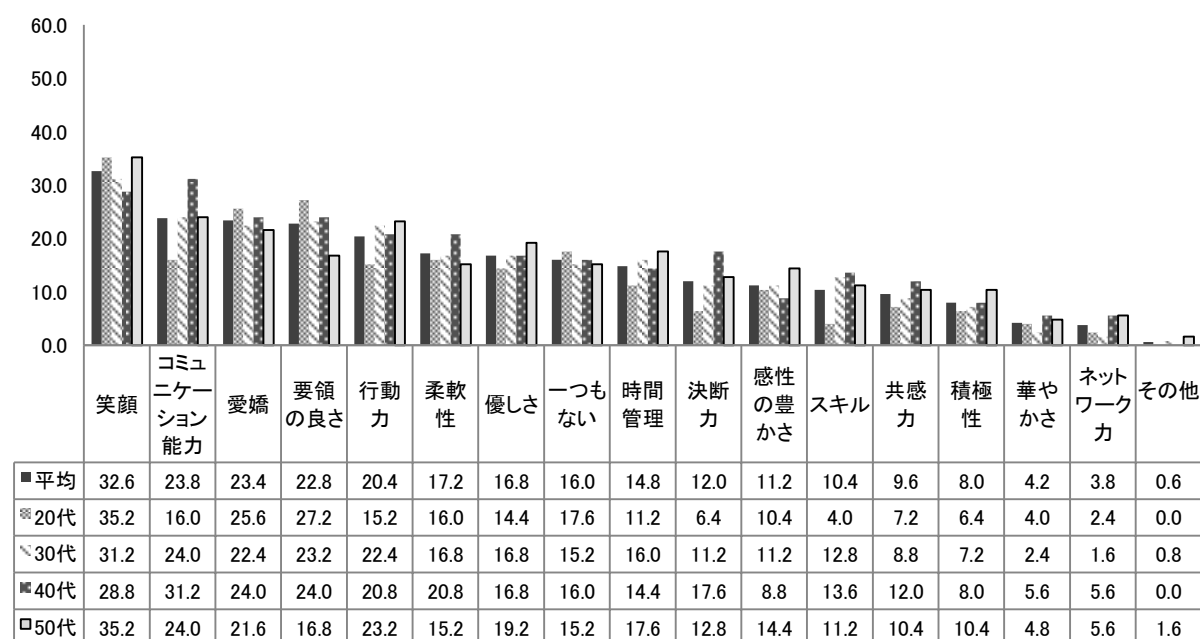
■「理想」



『武器にしていること』では、「笑顔」「コミュニケーション能力」「愛嬌」がどの年代でも高い結果となり、仕事場の人間関係をなるべく円滑にしたい気持ちがうかがえます。

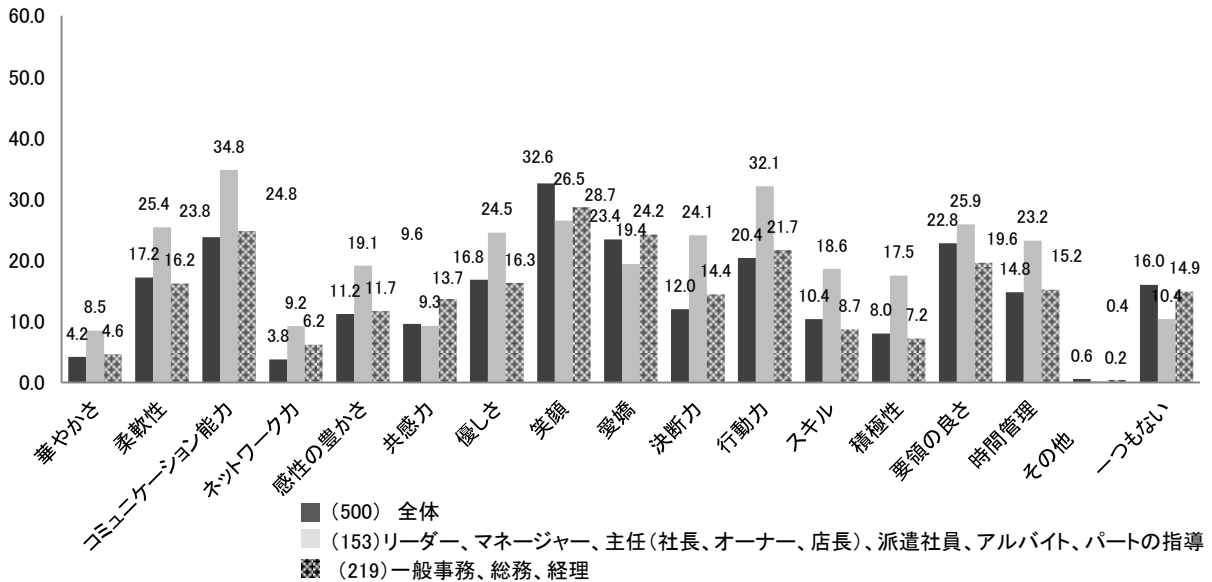
また、「愛嬌」はどの年代でも上位にあがっているにもかかわらず、「華やかさ」はどの年代でも圧倒的に低い結果となりました。

■「武器にしていること」



『武器にしていること』を業務内容別で比較すると、指導や経營業務に携わるグループでは、「柔軟性」「コミュニケーション能力」「決断力」「行動力」「スキル」「積極性」が平均よりも特に高い結果となりました。

■業務内容別比較(%)

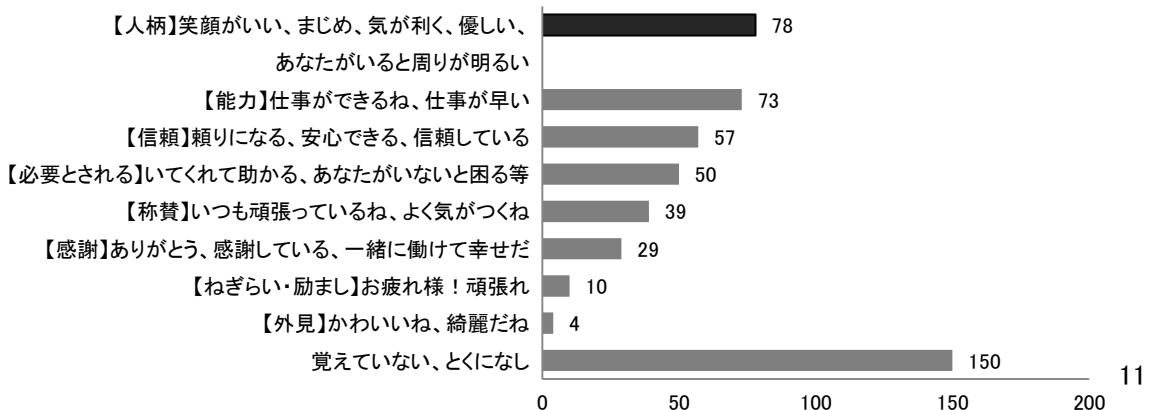


【8】 職場の上司や部下に言われて嬉しかった言葉を教えてください。(自由回答)

職場の上司に言われて嬉しいのは 人柄を褒める言葉 「仕事ができるね」より「笑顔がいいね」

働く既婚女性に「職場の上司や部下に言われて嬉しかった言葉」を質問したところ、「笑顔がいい」「まじめ」「気が利く」など、自分の人柄を褒める言葉に関する回答が最も多い結果となりました。次いで「仕事ができるね」といった、仕事能力評価に関する回答が続きました。

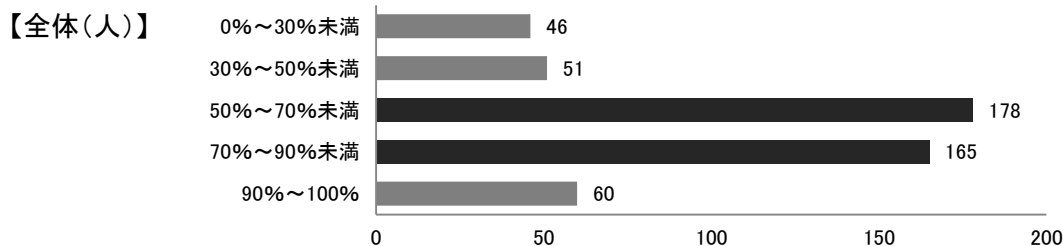
【全体(人)】



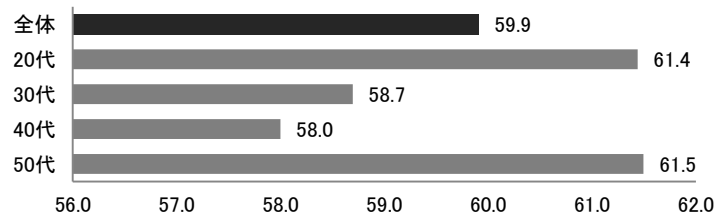
【9】 ワーク・ライフ・バランス(働く全ての方々が、「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方)を、あなた自身はどのくらい実現できていると思いますか。0 から 100%の間で実現度を教えてください。(自由回答)

ワーク・ライフ・バランス、実現の自己評価は平均60% 自己評価が高いのは、「派遣・契約社員」と 「パート・アルバイト」

働く既婚女性に、「ワーク・ライフ・バランスの実現度」について質問したところ、回答は50%から90%未満に集中し、全体の約7割になりました。全体の平均は約60%(59.9%)で、年代別で平均を比較すると、50代で61.5%と最も高く、30代と40代では平均を下回りました。最も仕事や育児に追われる世代ならではの結果といえそうです。



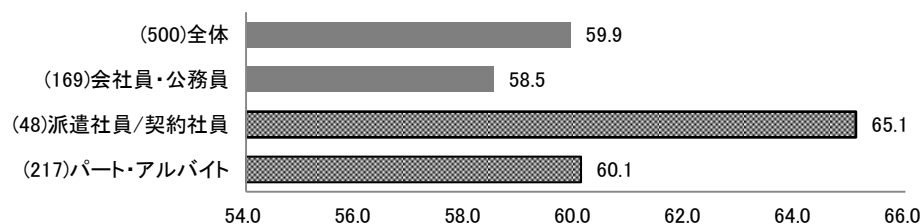
【年代別比較(%)】



雇用別で比較すると、「派遣・契約社員」(65.1%)が全体平均を上回り最も多く、次いで「パート・アルバイト」(60.1%)が続きました。ワーク・ライフ・バランスの実現には、働く時間との関連性が高いことがいえそうです。

【雇用別比較(%)】

()内はサンプル数



【10】【9】でお答えになった理由を教えてください。(自由回答)

ワーク・ライフ・バランスが高い理由には 「時短勤務」「家族の協力」 低い理由には「仕事が忙しい」意見が目立つ

働く既婚女性にワーク・ライフ・バランスの実現度の理由について質問をすると、実現度が高い人の回答には、「仕事の時間が短い」「定時で帰れる」「家族の協力がある」や「好きなことをしている」といった理由が目立ちました。また、実現度が低い人の回答には、「仕事がメイン」「仕事に忙殺される」と、仕事の忙しさに関する理由が大半を占めました。

■主な理由

90%~100%

- ・時間のゆとりや融通が利く仕事なのでとても充実している。たまにどうしても主人の休みの日に仕事になることがあるが、概ねバランスよく過ごせている(20代)
- ・残業もなく、定時で帰れる 趣味に集中できる(30代)
- ・短時間勤務のパートタイマーだから、残業も殆んど無く、まあ両立できている(40代)
- ・職場と自宅が同じところにあるので(50代)

70%~90%未満

- ・ある程度、仕事でもそれ以外でもやりがいを見付けているから(20代)
- ・まだ、子供がいないので自分の時間がとれるので友達との時間や趣味の時間は取れていると思うから。でも、子供が出来たら時間は無くなると思うので男性の育児、家事参加は必要(30代)
- ・仕事の時間が4時間だけというのが、家事と子育てと仕事を両立させる上で自分の中の疲弊具合が一番少ないので(40代)
- ・いろいろ目標や希望などがあるが、思ったようになかなか行動してないから(50代)

50%~70%未満

- ・どちらかに偏ってしまいがち もっと子どもを見てあげたい(20代)
- ・通勤時間や残業でなかなか仕事以外に時間をさけない。ただ、人とのコミュニケーションに関してはSNSの発達などで、かなりやりやすくなっているので、割と充実できていると思う(30代)
- ・バランスは取りたいが、仕事で本当に疲れたりとか仕事先でイヤな事があったりすると、つい家事を疎かにしたり、家族に当たってしまったりする自分がとてもイヤ(40代)
- ・仕事に追われる(50代)

30%~50%未満

- ・仕事に忙殺されてプライベートが充実できていない(20代)
- ・今は仕事が非常に少ないため、のめりこまずに済んでいるが、他に内容的に必死になってしまう仕事についたら、仕事で頭がいっぱいになってしまう(楽しんでしまう)くせがあると自覚している(30代)
- ・ほとんど、仕事をメインとした生活になっているから(40代)
- ・上記の全ての調和を取れる人はこれぐらいの数だと思う。何かと何かは出来ても、やりたいのに出来ない(時間や体力面で)事の方が多と思う(50代)

0%~30%未満

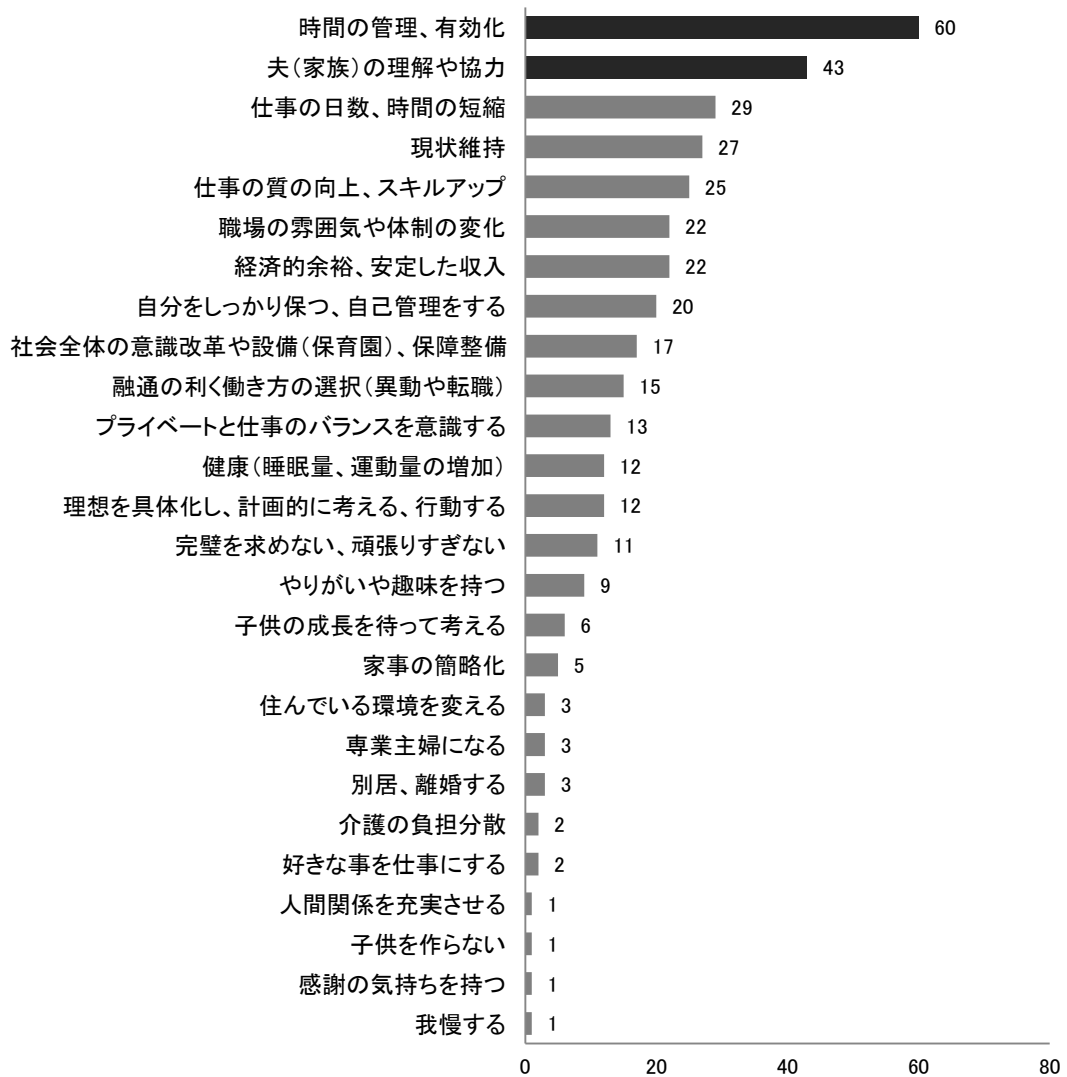
- ・不可能。仕事もして育児も時間をかけるのは無理。24時間しかないのに、仕事もして育児、家事もあるのに、育児をしている人だけ給料を増やして貰うしか方法は無い(20代)
- ・仕事の日は、帰ってから寝るまでの数時間、家事に終わって、全くリラックスできないから(30代)
- ・とにかく仕事が忙しく、通勤にも時間がかかっているので、生活のバランスがとれない(40代)
- ・人によって全く違う。意識して両方を充実させている人は少ない(50代)
- ・親の介護があるので、なかなか思うようにはならない(50代)

【11】 今後、ワーク・ライフ・バランスの実現度をより上げていくためには、どのようにしたらいいと思いますか(自由回答)

ワーク・ライフ・バランスの実現のカギは「時間管理」「夫(家族)の協力」

働く既婚女性に『ワーク・ライフ・バランスの実現度をより上げていくには、どのようにしたらいいと思いますか』と質問をしたところ、「時間の管理、有効化」(60人)という回答が最も多く、次いで「夫(家族)の理解や協力」(43人)と続きました。時間の使い方を見直すこと、家族のサポートを得ることが重要だと考える人が大多数のようです。

【全体(人)】



【12】「子供がいる」方にお伺いします。子育てをしながら働くことで、子どもがいなかったときと比較して物事の考え方に変化はありましたか。どのような変化か教えてください。
(自由回答・人)

子供が生まれて学んだのは「時間の大切さ」 育つにつれ考え方は「子供が第一」へとシフト

働く既婚女性の中で子供がいる方 232 人に『物事の考え方に変化はありましたか』と質問したところ、20代と30代では「仕事の効率化、時間の大切さ、時間の管理」、40代と50代では「子供が第一優先の生活になった」という回答が最も多くなりました。子供が生まれたことによる環境の変化によって時間の使い方を学び、成長すると子供に関するイベントが生活の中心になる様子がうかがえます。

【世代別(人)】「子供がいる」方:232人対象

20代			30代		
1	仕事の効率化、時間の大切さ、時間の管理	22	1	仕事の効率化、時間の大切さ、時間の管理	13
2	子供が第一優先の生活になった	7	2	子供が第一優先の生活になった	11
3	仕事と育児の両立への葛藤	6	3	精神的な変化(視野が広がった、我慢強くなった、仕事に対する責任感が増した)	9
3	子供がいる人への理解	6	4	子供がいる人への理解	5
5	しっかりするようになった	3	5	仕事と育児の両立への葛藤	3
6	疲れる、ストレス	2	6	子供との時間を一番大事にしたい気持ち	2
40代			50代		
1	子供が第一優先の生活になった	16	1	子供が第一優先の生活になった	9
2	精神的な変化(視野が広がった、我慢強くなった、仕事に対する責任感が増した)	6	2	仕事の効率化、時間の大切さ、時間の管理	8
3	子供がいる人への理解	3	3	精神的な変化(視野が広がった、我慢強くなった、仕事に対する責任感が増した)	8
3	仕事の効率化、時間の大切さ、時間の管理	3	4	柔軟性がついた	3
3	仕事と育児の両立への葛藤	3	4	仕事と育児の両立への葛藤	3
3	頑張れる	3	6	子供がいる人への理解	2
			6	頑張れる	2

■一部回答抜粋

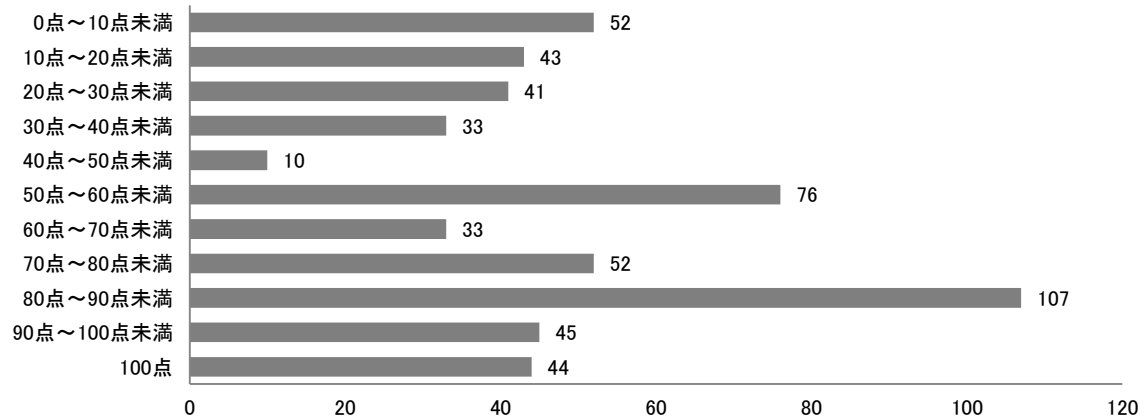
- ・自分自身が保育園に預けられて育ち、小学生のころは誰もいない家に帰宅することが寂しく、専業主婦になりたいと思っていた。働いてる今、両親への感謝の気持ちが芽生えた(20代)
- ・それほど変わらないとは思いますが、多少物事を見る視野が広がったように思う(30代)
- ・残業は絶対できなくなったので、いかに効率よく仕事を進めるかを常に考えるようになった(30代)
- ・子供がいなかった時は自分の事しか考えていなくて、自分が生きて行けさえいけばいいと思っていた。でも、子供が出来てからは、その先、先を考えるようになった(40代)
- ・相手の気持ちを思いやることがよりいっそうできるようになったと思う(50代)

【13】 夫の家事への貢献度に対して採点するとしたら何点をつけますか。(自由回答)
 ※100点を満点とします。

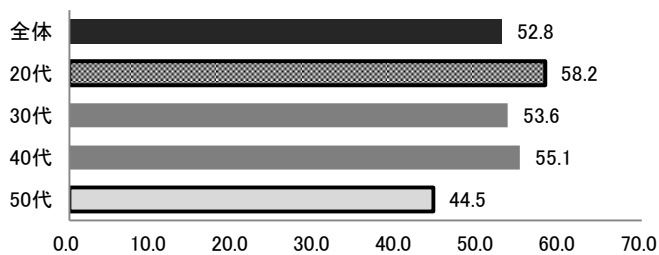
夫の家事への貢献度は平均53点 夫の家事貢献度が高いほど、 ワーク・ライフ・バランスの実現度も高いという結果に

働く既婚女性に『夫の家事への貢献度について採点するとしたら何点をつけますか』と質問したところ、40点～50点未満では少なく、80点～90点未満では多かったものの、大きな偏りがなく全体的に回答が万遍なく散らばった結果となりました。

【全体(人)】



■年代別比較 平均(点)

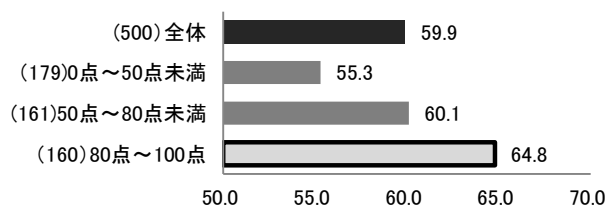


全体の平均は約53点(52.8点)で、年代別で比較すると20代が最も高く約58点(58.2点)、50代が最も低く約45点(44.5点)となりました。

20代と50代では、世代による男性の家事への考え方の違いが影響しているといえそうです。

■夫の貢献度点数別 ワーク・ライフ・バランス実現度比較 平均(点)

()内はサンプル数



夫の貢献度の点数ごとにワーク・ライフ・バランス実現度の自己評価をみると、夫の貢献度が高いグループほど、ワーク・ライフ・バランスの自己評価も高い結果となりました。働く既婚女性が充実したライフスタイルを送るには、夫の協力が欠かせないといえそうです。

【14】【13】でお答えになった理由を教えてください。(自由回答・%)

夫の家事貢献度に対する理由の上位2つは、 「ほとんど何も手伝ってくれない」、 「なんでもやってくれる」

働く既婚女性に夫の家事貢献度の理由を質問すると、「ほとんど何も手伝ってくれない」(94人)、「なんでもやってくれる」(91人)が1位と2位になりました。個人的な受け止め方に差はあるものの、ほとんど家事に加担しない夫と、なんでも家事を手伝ってくれる夫の2パターンに分かれる傾向があるようです。

■主な理由(人)

1	ほとんど何も手伝ってくれない	94
2	なんでもやってくれる	91
3	部分的に(お願いすれば)やってくれる	90
4	部分的にしかやってくれない(お願いしないとやってくれない)	76
5	概ねやってくれる	69
6	期待していない	29
7	自分のことは自分でやってくれる	9
8	頼まない	5

■一部回答抜粋

- ・結婚当初に比べて、全く家事を手伝ってくれなくなった。たまに休日にトイレ掃除をするぐらいだから(10点、20代)
- ・特に手伝ってもらってはいない。が、私もそれを望まない。私の家事は褒めてくれ、家事をする私を尊敬し、労をねぎらってくれるので、毎日気持ちよくすごせているので100点！(100点、20代)
- ・自分の作りたいもの、食べたいものは調理するが、後片付けは全くしない。掃除もほとんどしないし、協力もない(10点、30代)
- ・掃除は苦手ですが、それ以外は全て協力してくれます。食事の準備をしていると、こちらの様子を伺いながら『手伝う事があったら言ってね』と声を掛けてくれます(90点、30代)
- ・何もしないから。ただし私の手抜き家事についても気付かないし何も言わないのでこれでよい(5点、40代)
- ・とても協力的で、料理、掃除、洗濯、子育てのすべてにかかわってくれる。またねぎらいの言葉を厭わずにかけてくれる(100点、40代)
- ・夫は家事は妻がするものといい、共働きでもまったく家事をしませんでした(0点、50代)
- ・料理に関しては無理だけれど、整理整頓、掃除、家の周りの植木の剪定などよく動いてくれます(80点、50代)

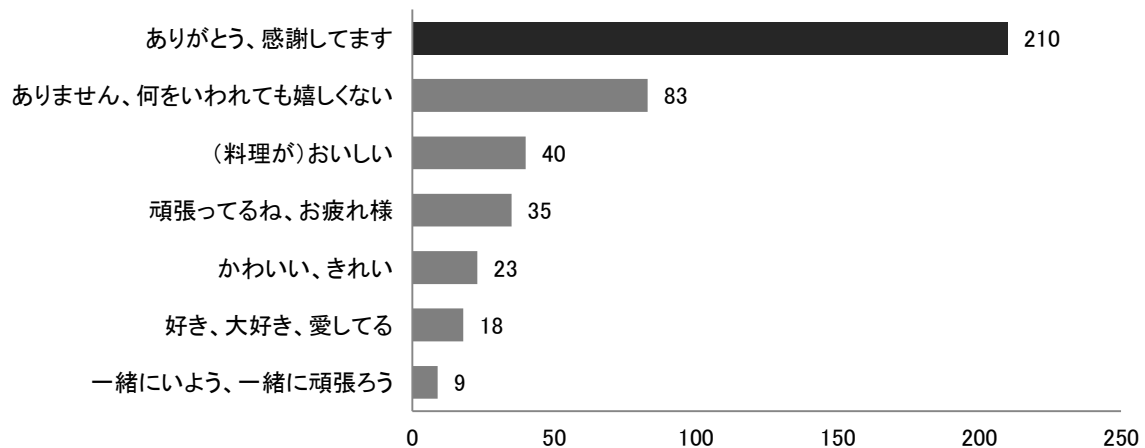
【15】夫の口から言われたら嬉しい一言を教えてください。(自由回答・人)

夫に言われて一番嬉しい言葉は、 「愛してる」より「ありがとう」 その反面、「ありません」「何を言われてもうれしくない」が2位に

働く既婚女性に『夫の口から言われたら嬉しい一言を教えてください』と質問したところ、「ありがとう、感謝してます」(210人)と、感謝を伝える言葉が圧倒的に多い結果となりました。続いたのは、「ありません、何を言われてもうれしくない」(83人)で、もはや夫からの褒め言葉は期待していない気持ちの表れかもしれません。

次いで、「(料理)がおいしい」、「頑張ってるね、お疲れ様」、「かわいい、きれい」など褒めたり称えたりする言葉に関する回答が続きました。

【全体(人)】



■一部回答抜粋

- ・いつもがんばってるね。ありがとう。こんないい嫁さんもらって幸せやあ(20代)
- ・ふとした時に可愛いといわれると嬉しいです。あと、さすが僕の嫁！もうれしいです(20代)
- ・子どもを連れて遊びに行ってくるね。その間好きな事してていいよ(30代)
- ・毎日よく頑張ってるね、お疲れ様、ありがとう。とにかく働きながら平日も休日も家事をしていることに対する感謝があらわれている言葉ならなんでも(30代)
- ・これから一生、楽しませてあげるよ(40代)
- ・いてくれてよかった(40代)
- ・「愛している」と一度で良いから言ってもらいたいですね(笑)。言わないでしょうけれど(50代)
- ・食事の時にしみじみ「あ～美味しい」「いつも美味しいご飯ありがとう」(50代)